

第3章

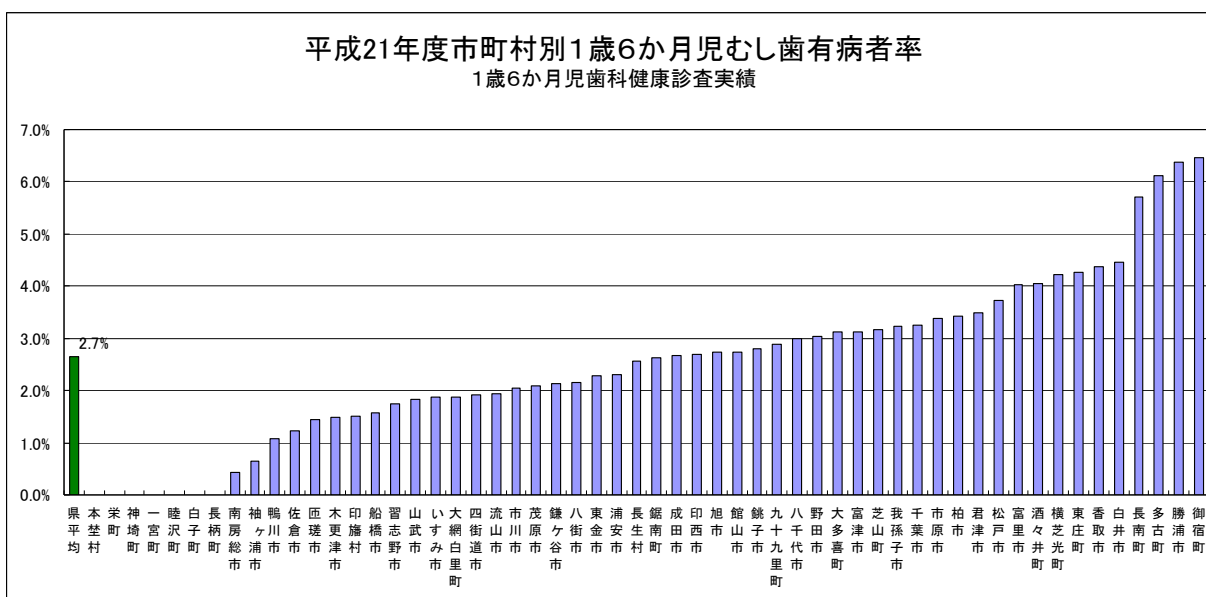
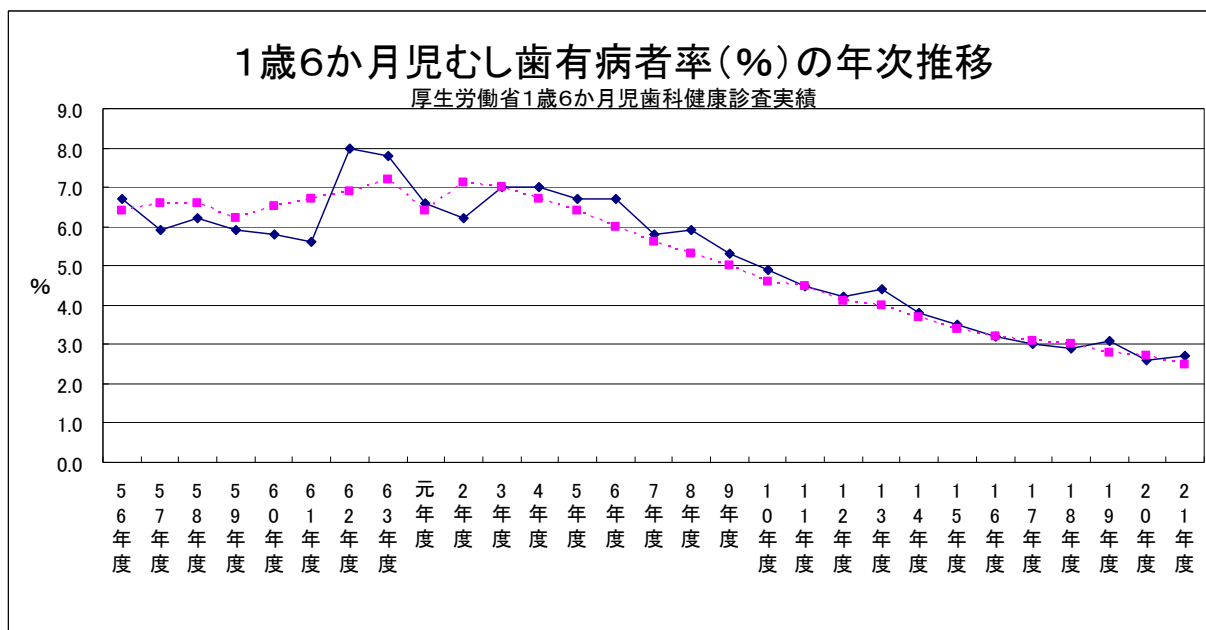
歯・口腔保健の現状と課題

第1節 歯科疾患の状況

1 乳幼児のむし歯の状況

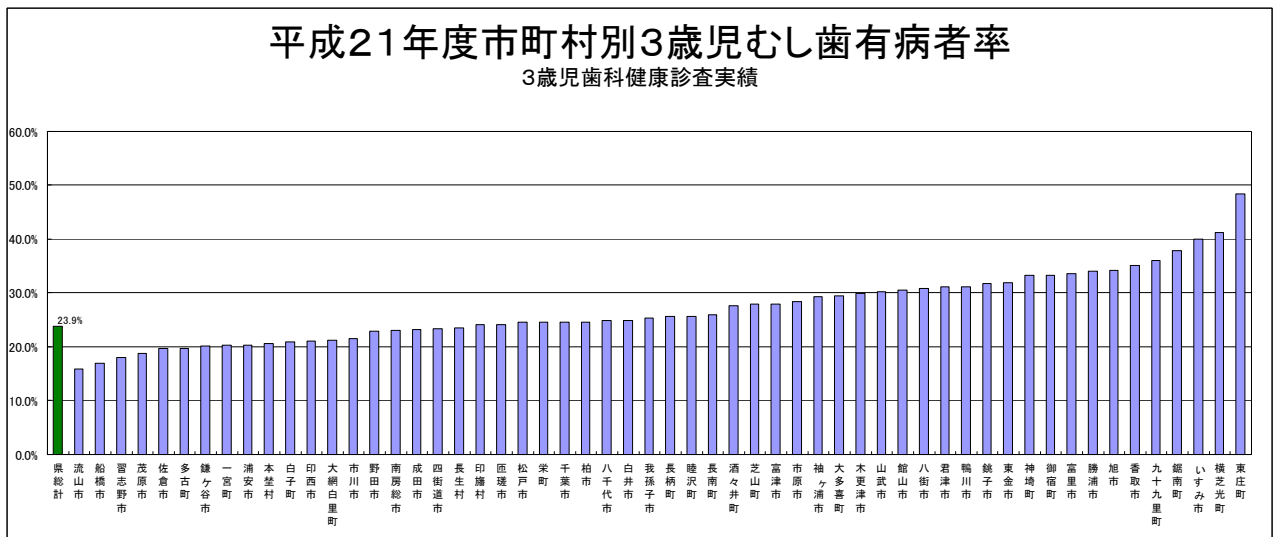
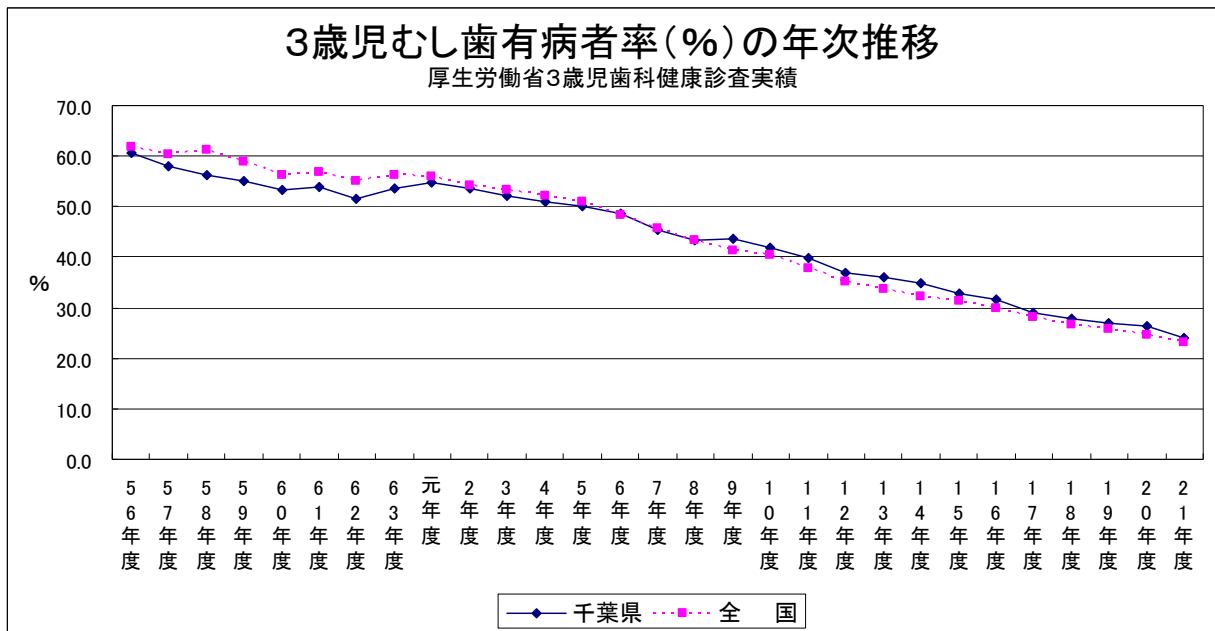
(1) 1歳6か月児（1歳6か月児歯科健康診査実績）

むし歯有病者率は年々減少傾向にあります。市町村別にみると、平成21年度のむし歯有病者率は、市町村間で0%から約6%の開きがあります。



(2) 3歳児（3歳児歯科健康診査実績）

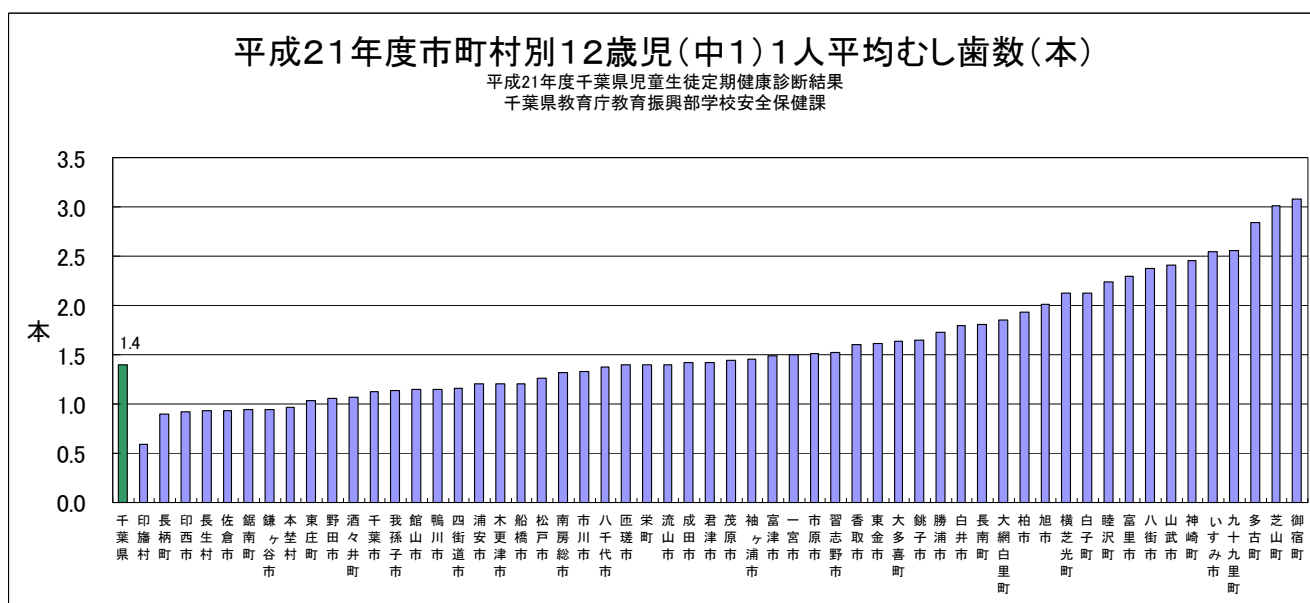
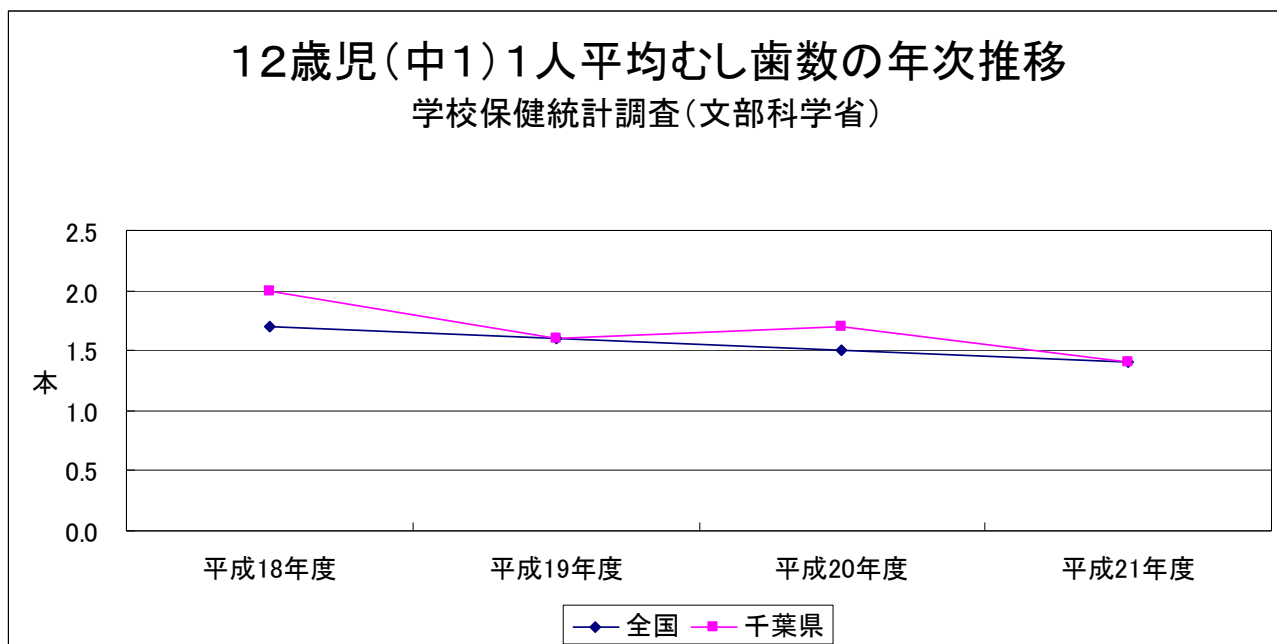
むし歯有病者率は年々減少傾向にあります。市町村別にみると、平成21年度のむし歯有病者率は、市町村間で約16%から約48%の開きがあります。



2 児童生徒のむし歯の状況

(1) 12歳児のむし歯の状況（学校保健統計調査報告）

1人平均むし歯数は年々減少傾向にあります。市町村別にみると、平成21年度の1人平均むし歯数は、市町村間で約0.5本から約3.0本の開きがあります。



(2) 歯垢・歯肉の状態（平成21年度千葉県児童生徒定期健康診断結果）

平成21年度の児童生徒の歯垢の状態は、「ほとんど付着なし」が小学校89.3%、中学校83.4%、全日制高等学校84.9%であり、歯肉の状態は、「異常なし」が小学校92.7%、中学校85.5%、全日制高等学校87.7%です。

児童生徒の歯垢・歯肉の状態

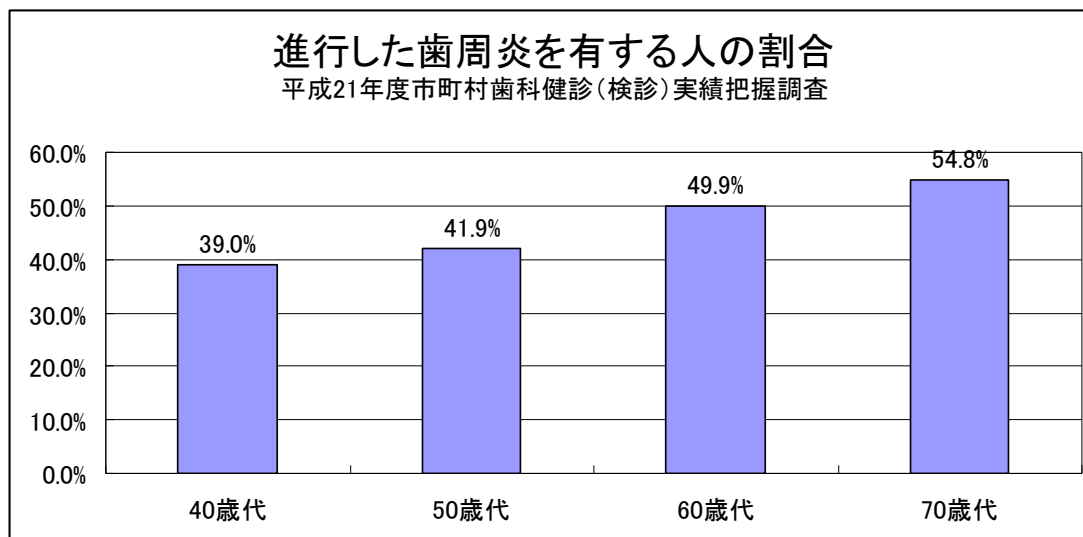
		小学校	中学校	全日制高等学校
歯垢の状態	ほとんど付着なし	89.3%	83.4%	84.9%
	若干の付着あり	13.1%	21.3%	18.1%
	相当の付着	2.4%	4.7%	3.1%
歯肉の状態	異常なし	92.7%	85.5%	87.7%
	定期的観察が必要	8.9%	18.7%	15.4%
	専門医(歯科医師)による診断が必要	1.6%	4.2%	3.1%

平成21年度千葉県児童生徒定期健康診断結果

3 成人及び高齢者の歯周疾患、歯の喪失の状況

(1) 歯周疾患の状況

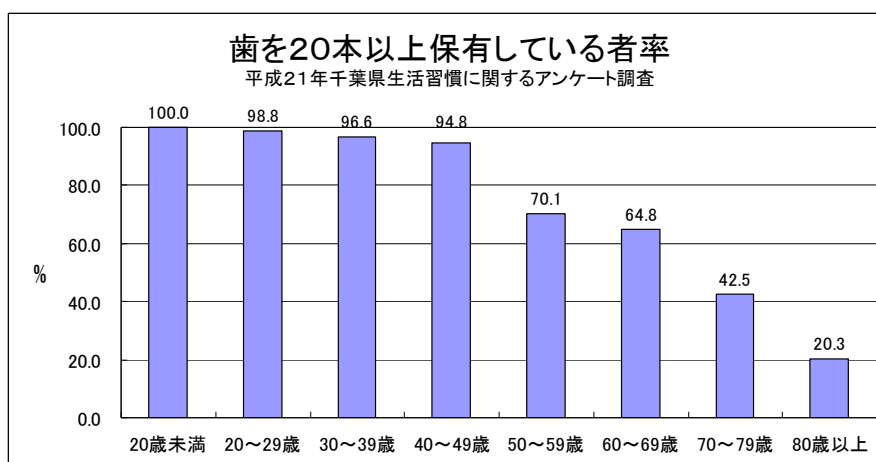
進行した歯周炎を有する人の割合(CPITN=3,4)は、40歳代が39.0%、50歳代が41.9%、60歳代が49.9%、70歳代が54.8%と年齢が増加するにつれて増えています。



(2) 歯の喪失の状況

平成17年度国勢調査結果によれば、本県の高齢化率は全国で5番目に低いものの、高齢者人口は全国2番目の伸び率で増加しており、平成27年には、約4人に1人が高齢者となる見込みです。

高齢者にとって自分の歯で噛むことは、生活の質の向上に重要です。40歳代までは、歯を20本以上保有している者率は、90%以上を保有しているものの、50歳代から急激に減り、80歳以上では20.3%に減少しています。

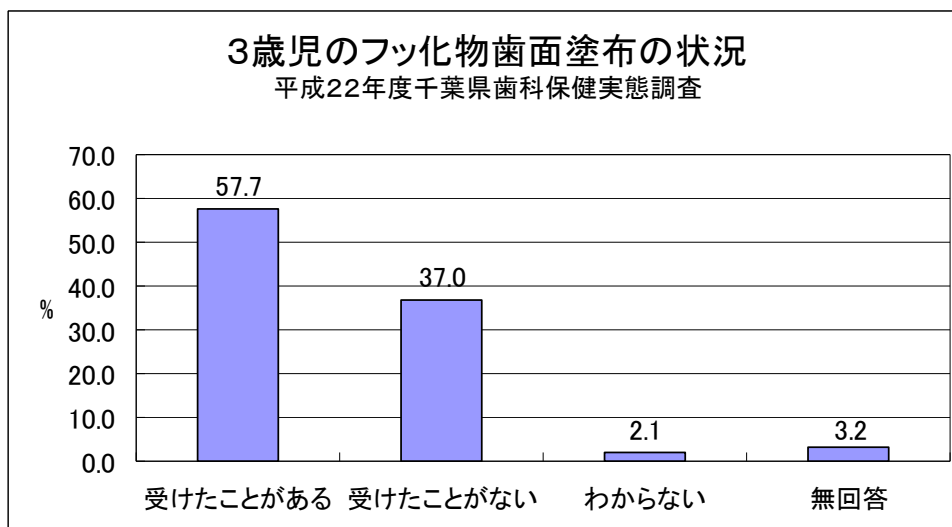


第2節 歯・口腔保健意識状況

1 乳幼児

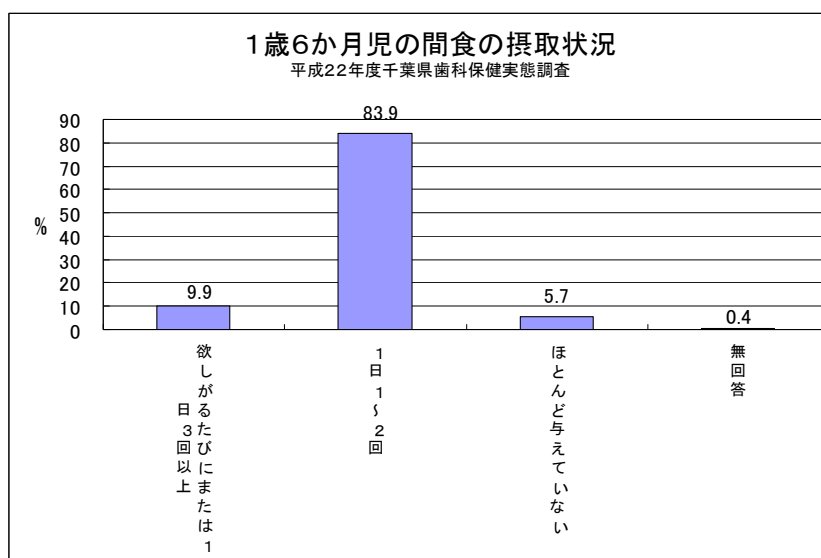
(1) 3歳児のフッ化物歯面塗布の状況

3歳児のフッ化物歯面塗布の状況は、「受けたことがある者」は57.7%、「受けたことがない者」は37.0%でした。



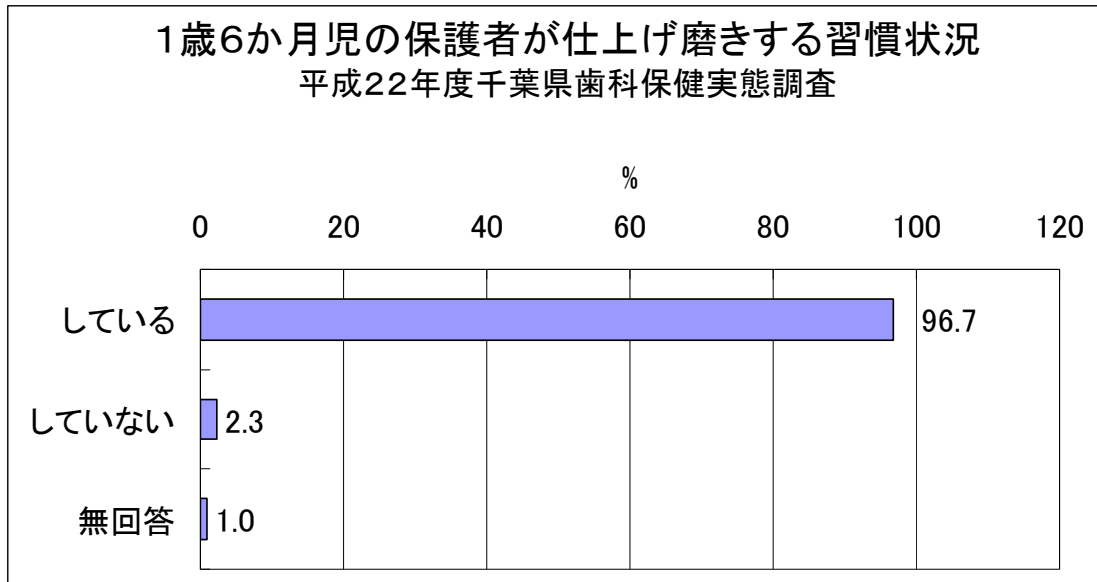
(2) 1歳6か月児の間食の摂取状況

1歳6か月児の間食の摂取状況は、「1日に1~2回」が最も多く83.9%だった。また、「欲しがるたびにまたは1日3回以上」は9.9%でした。



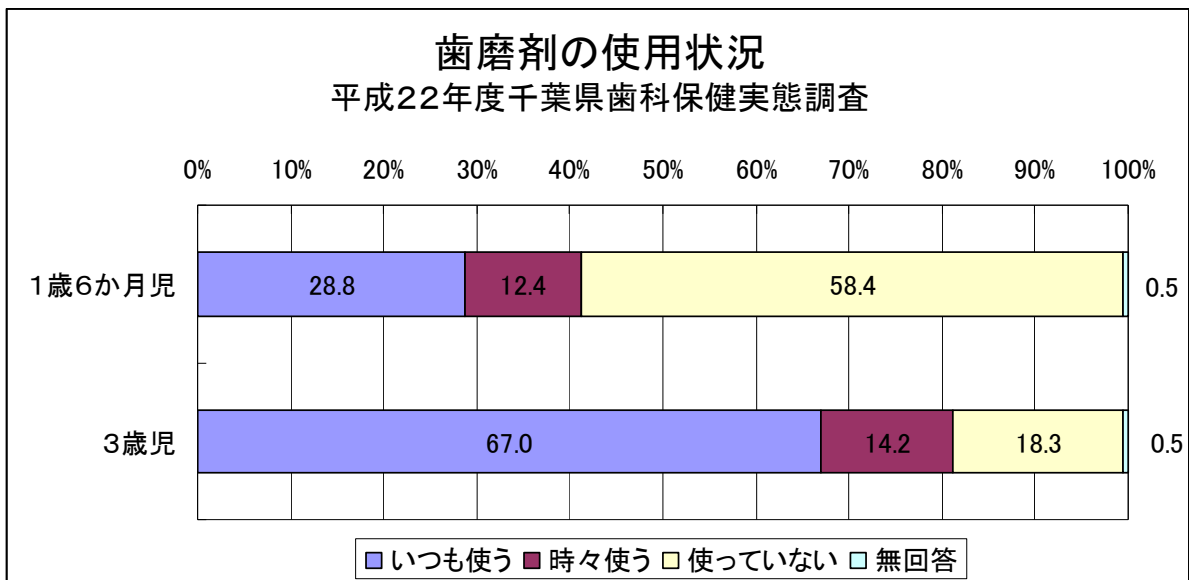
(3) 1歳6か月児の保護者が仕上げ磨きをする習慣状況

仕上げ磨きをしている1歳6か月児の保護者は、96.7%でした。



(4) 歯磨剤の使用状況

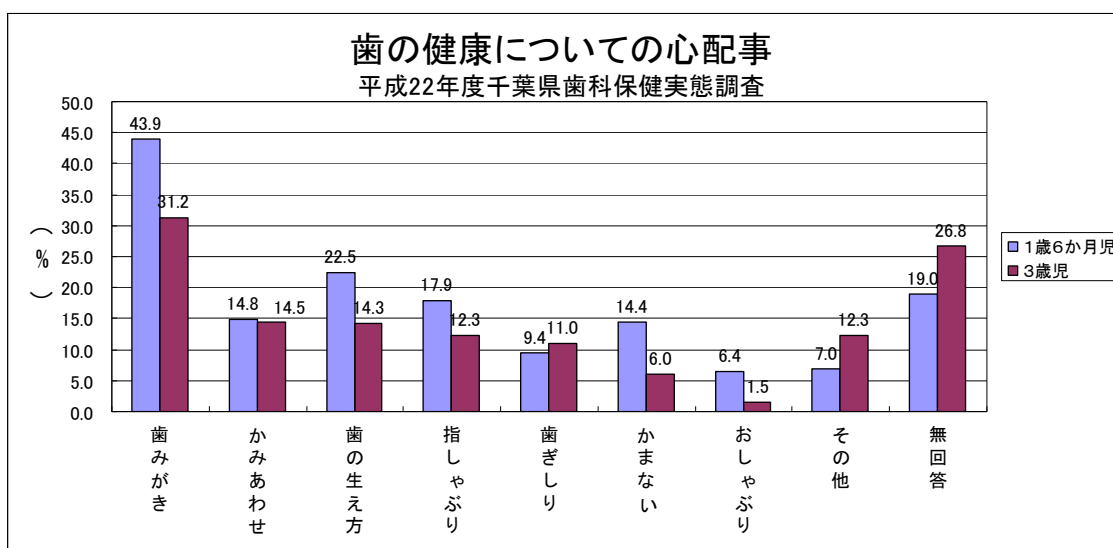
歯磨剤の使用状況は、1歳6か月児では「使っていない」が最も多く58.4%、3歳児では「いつも使う」が最も多く67.0%でした。



(5) 歯の健康についての心配事

1歳6か月児では、「歯みがき」(43.9%)が4割を超えて最も高く、次いで「歯の生え方」(22.5%)、「指しゃぶり」(17.9%)、「かみあわせ」(14.8%)、「かまない」(14.4%)などの順となっていました。

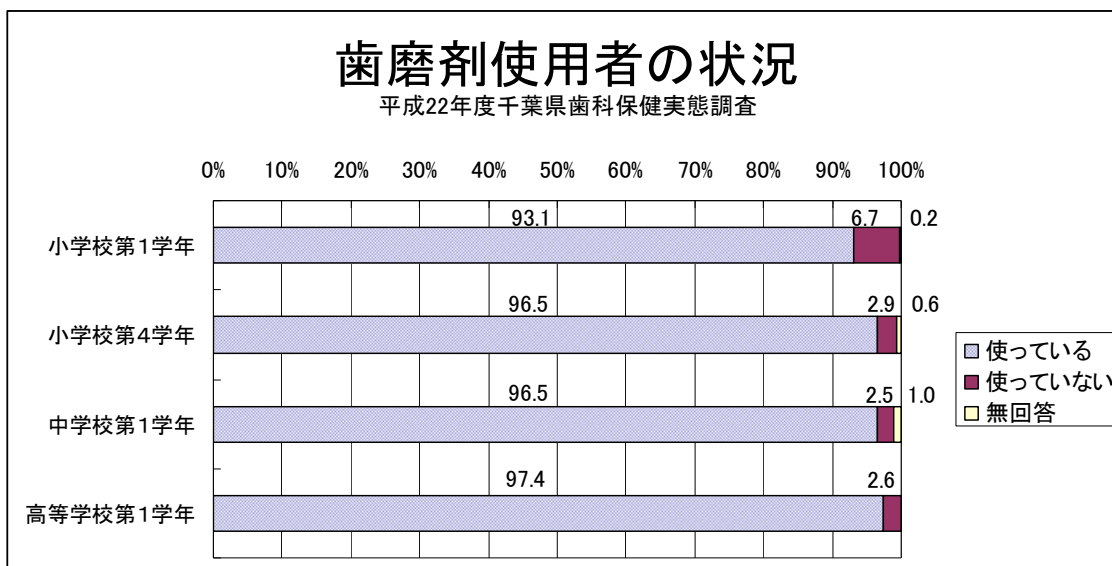
3歳児では、「歯みがき」(31.2%)が3割を超えて最も高く、次いで「かみあわせ」(14.5%)、「歯の生え方」(14.3%)、「指しゃぶり」(12.3%)、「歯ぎしり」(11.0%)などの順となっていました。



2 児童生徒

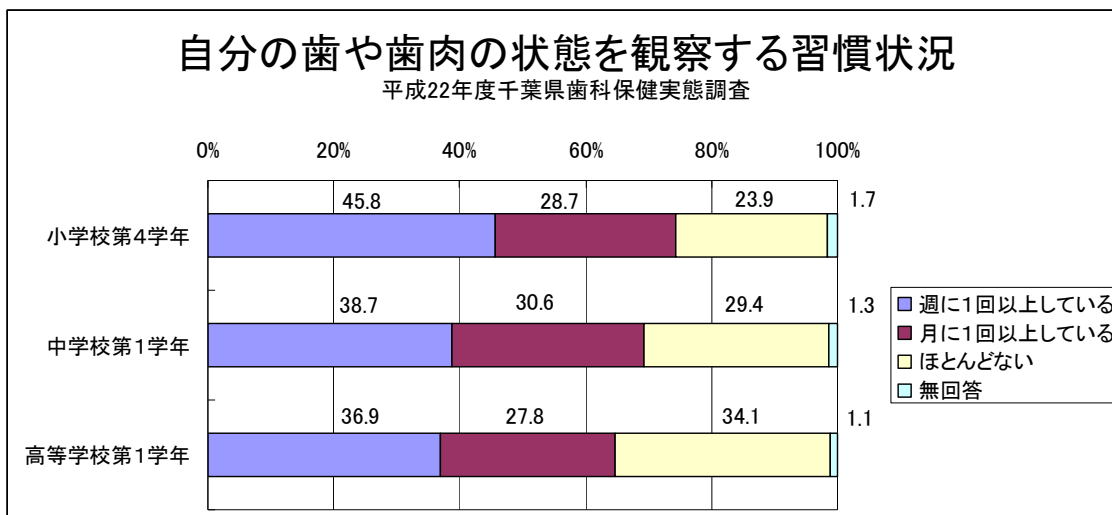
(1) 歯磨剤使用者の状況

歯磨剤を使っている者は、小学校第1学年 93.1%、小学校第4学年 96.5%、中学校第1学年 96.5%、高等学校第1学年 97.4%でした。



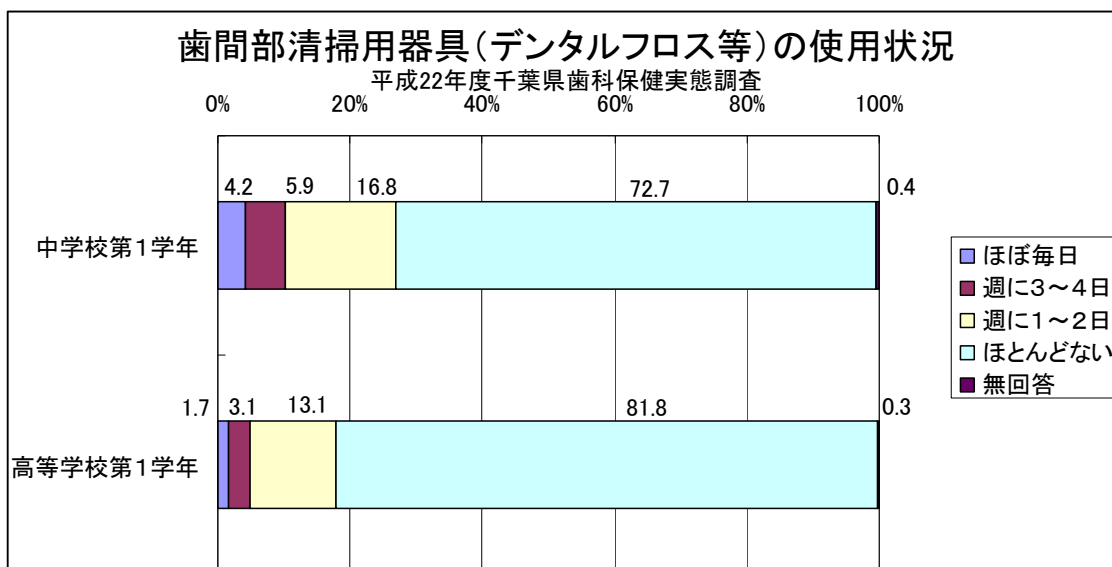
(2) 自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣状況

自分の歯や歯肉の状態を観察する習慣を週に1回以上している者は、小学校第4学年 45.8%、中学校第1学年 38.7%、高等学校第1学年 36.9%でした。



(3) 歯間部清掃用器具の使用状況

歯間部清掃用器具の使用状況は、「ほとんどない」が最も多く中学校第1学年72.7%、高等学校第1学年81.8%でした。



(4) 歯の健康についての悩みや気になること

歯の健康についての悩みや気になることについては、小学校第1学年、中学校第1学年、高等学校第1学年では、「歯ならび」が最も多くそれぞれ45.0%、31.8%、30.4%に対して、小学校第4学年では「ものがはさまる」が43.8%と最も多かったです。

歯の健康についての悩みや気になること

	歯ならび	ものがはさまる	歯が痛んだり、しみてたりする	かみあわせがよくない	歯ぐきから血が出たり、はれたりする	口臭がある	口をあけるとあごがゴリゴリ音がる	粘るような不快感がある	その他	無回答
小学校第1学年	45.0	6.7	2.4	8.3	3.8	13.7	0.2	0.2	13.1	30.4
小学校第4学年	41.2	43.8	17.5	16.8	19.8	9.8	7.7	3.6	8.5	16.8
中学校第1学年	31.8	29.2	18.1	12.2	13.6	4.7	5.6	1.9	7.4	27.2
高等学校第1学年	30.4	21.3	19.0	12.8	10.8	5.4	11.4	2.6	6.0	31.5

平成22年度千葉県歯科保健実態調査

(5) 市町村別フッ化物洗口実施状況

平成22年3月現在、12市町村内の98施設でフッ化物洗口を実施していました。また、実施人数は7,992人でした。

市町村別フッ化物洗口実施施設数 (平成22年3月現在)

	市町村名	実施施設数					計
		保育所	幼稚園	小学校	中学校	養護(障害)等	
1	八千代市	1		1			2
2	鎌ヶ谷市	5	8	1			14
3	成田市			1			1
4	匝瑳市	1		2			3
5	山武市	8	6				14
6	大網白里町		2				2
7	茂原市	1		2			3
8	長生村	3					3
9	鴨川市	4	10	10	3		27
10	木更津市			1	1		2
11	君津市			3			3
12	市原市	7	14	3			24
	計	30	40	24	4	0	98

千葉県健康福祉部健康づくり支援課調査

市町村別フッ化物洗口実施人数 (平成22年3月現在)

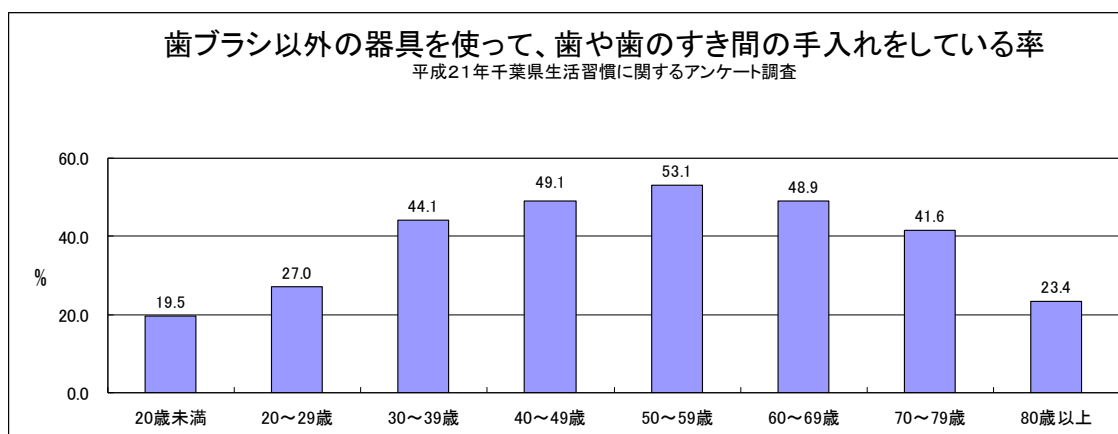
	市町村名	実施人数					計
		保育所	幼稚園	小学校	中学校	養護(障害)等	
1	八千代市	34		92			126
2	鎌ヶ谷市	284	1,303	399			1,986
3	成田市			245			245
4	匝瑳市	13		212			225
5	山武市	366	338				704
6	大網白里町		265				265
7	茂原市	33		729			762
8	長生村	116					116
9	鴨川市	66	342	1,056	338		1,802
10	木更津市			96	17		113
11	君津市			507			507
12	市原市	211	764	166			1,141
	計	1,123	3,012	3,502	355	0	7,992

千葉県健康福祉部健康づくり支援課調査

3 成人及び高齢者

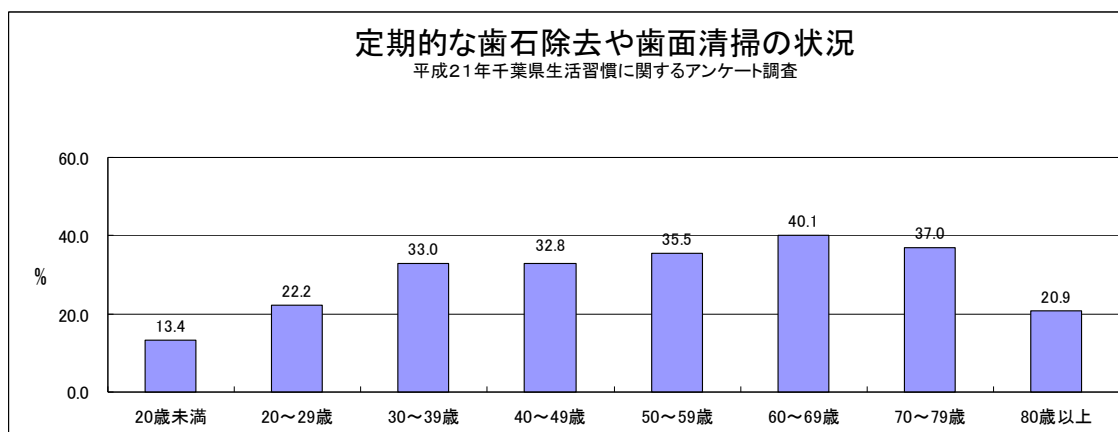
(1) 歯ブラシ以外の器具の使用状況

歯ブラシ以外の器具を使って、歯や歯のすき間の手入れをしている者について、年齢階級別にみると、50歳代の53.1%を除いて、すべての年代において50%に満たない状況でした。



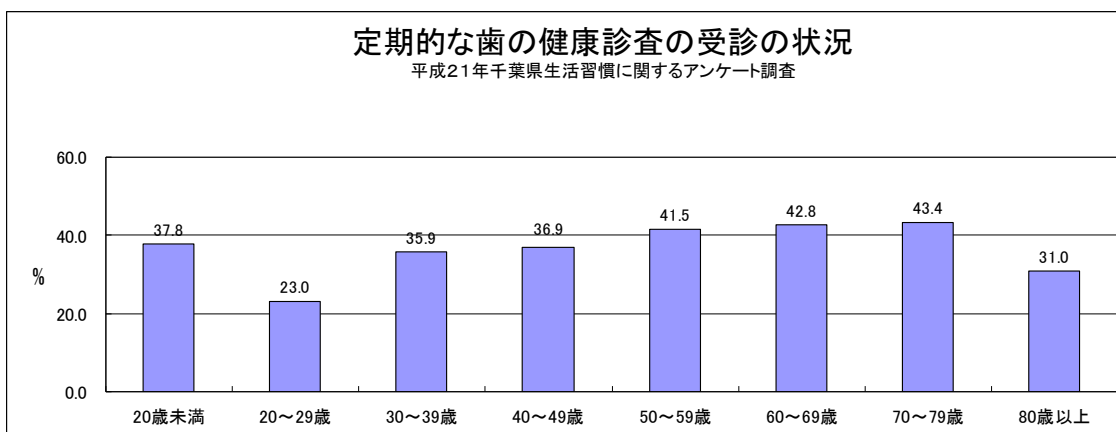
(2) 定期的な歯石除去や歯面清掃の状況

定期的な歯石除去や歯面清掃を受けている者について、年齢階級別にみると、60歳代の40.1%を除いて、すべての年代において40%に満たない状況でした。



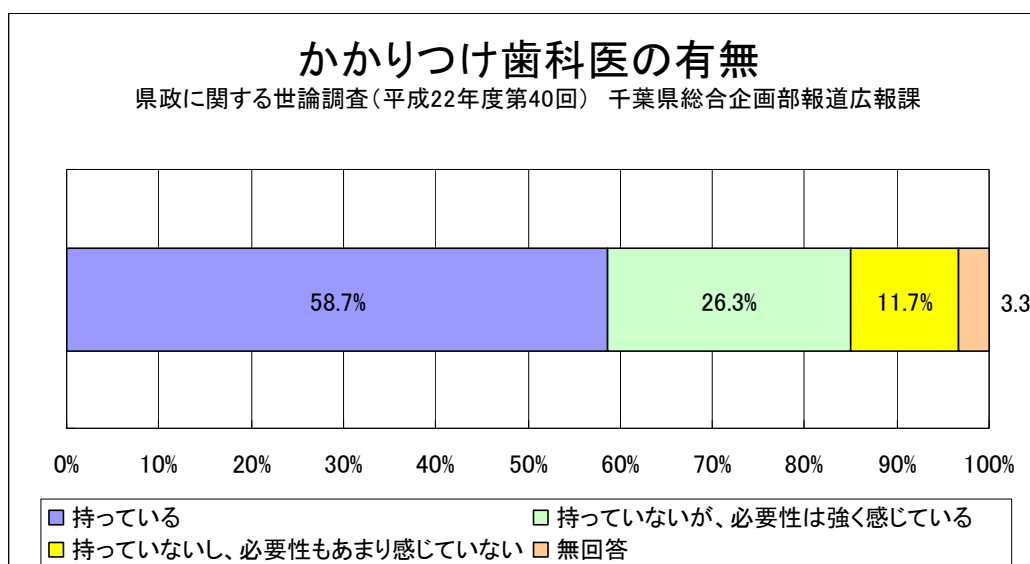
(3) 定期的な歯の健康診査の受診の状況

定期的な歯の健康診査の受診を受けている者について、年齢階級別にみると、すべての年代において、70歳代の43.4%を最高に50%に満たない状況でした。



(4) かかりつけ歯科医の有無

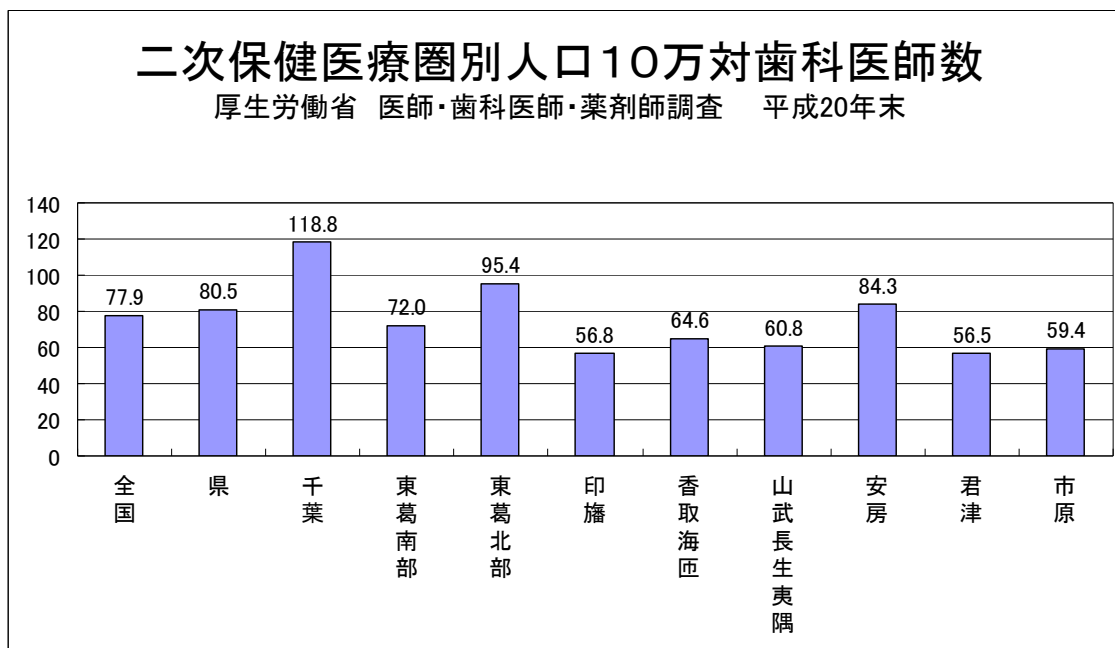
20歳以上の県民のうち、58.7%の者がかかりつけ歯科医を持っていると回答していました。



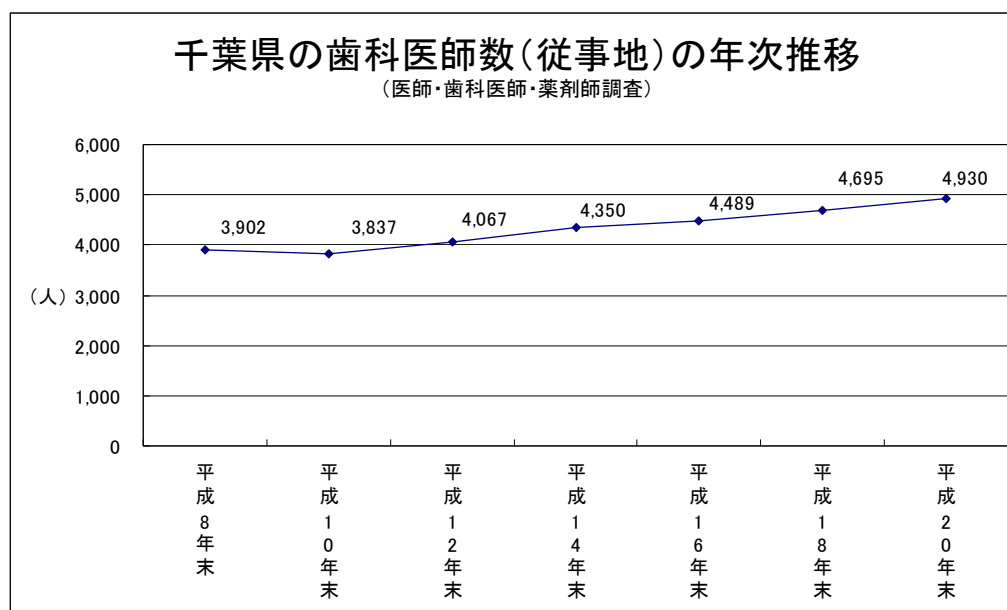
第3節 保健医療従事者等の状況

1 歯科医師

平成20年末現在、人口10万対歯科医師数で見ると、千葉県は80.5と全国の77.9より多い状況でした。二次保健医療圏別にみると、千葉保健医療圏が118.8と最も多く、君津保健医療圏は56.5と少ない状況でした。

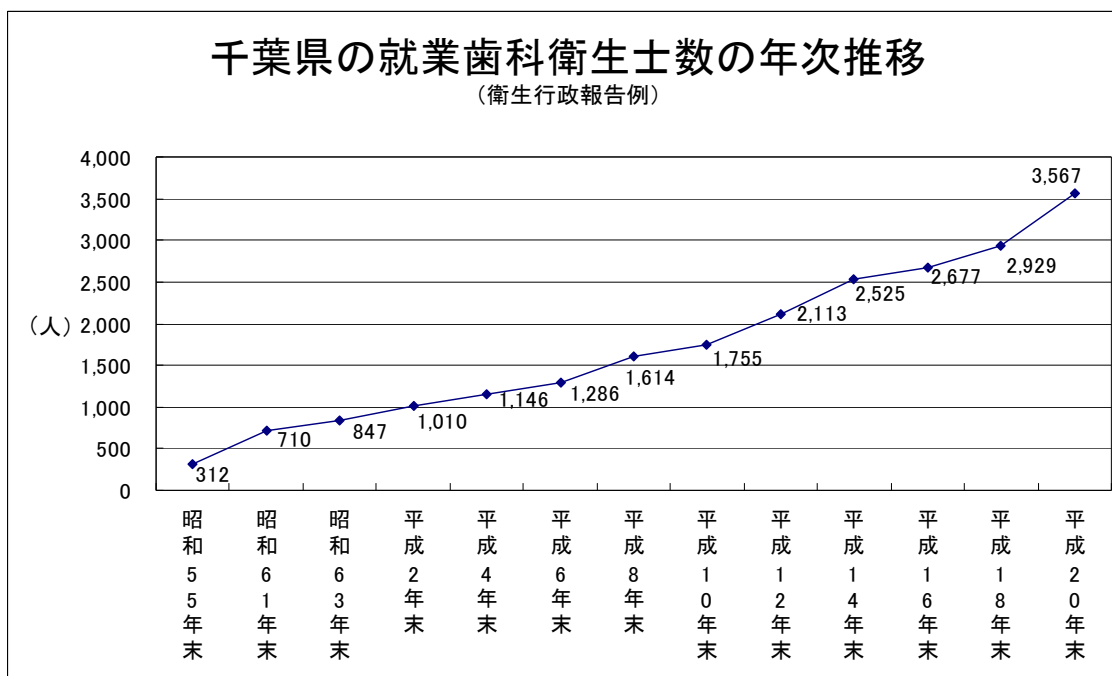


歯科医師数を年次推移で見ると、県内の歯科医師数は年々増加しています。

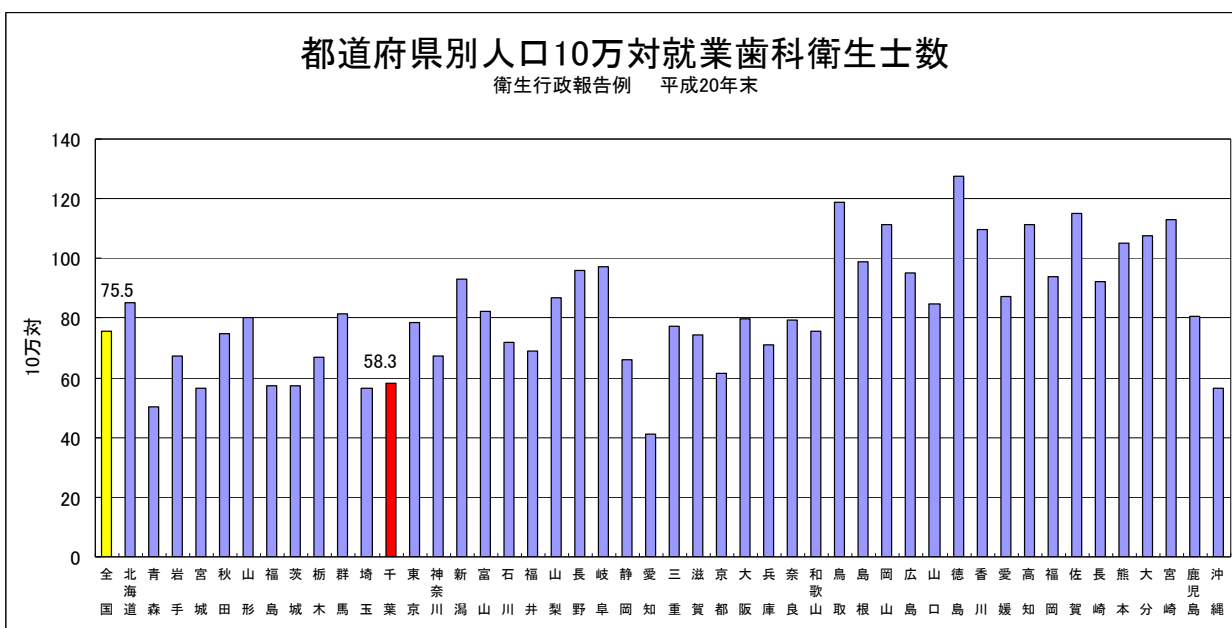


2 歯科衛生士

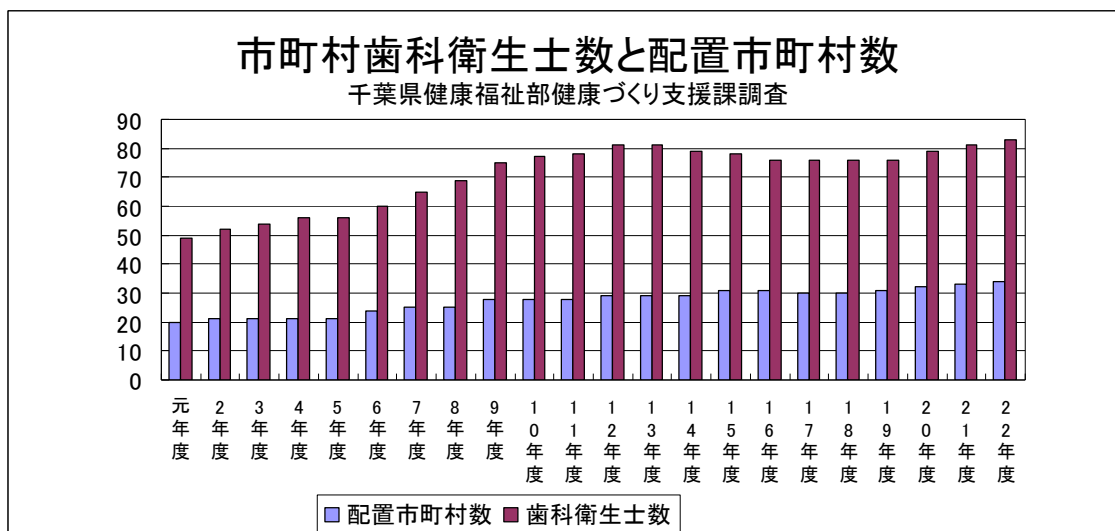
歯科衛生士数を年次移でみると、県内の就業歯科衛生士数は年々増加しています。



就業歯科衛生士を都道府県別に人口10万対の率でみると、千葉県は58.3と全国の75.5に比較して少ない状況でした。

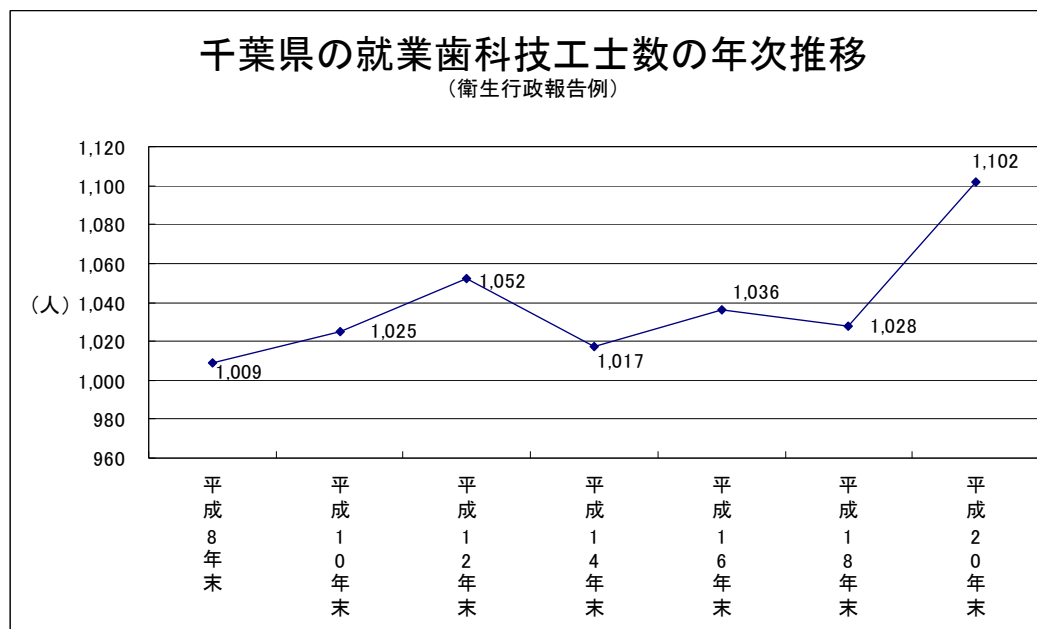


市町村に勤務する歯科衛生士は 34 市町村 83 名（平成 22 年 4 月 1 日現在）です。また、近年、市町村に勤務する歯科衛生士数及び配置市町村は増加傾向にあります。



3 歯科技工士

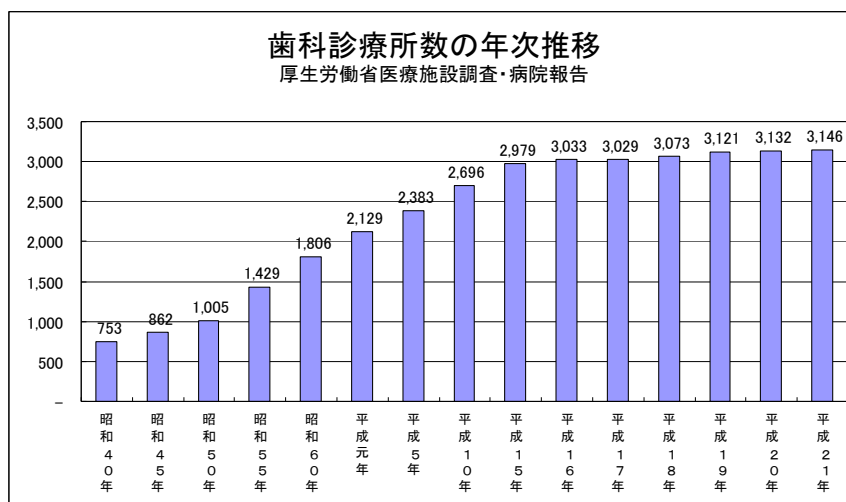
歯科技工士数を年次推移で見ると、県内の就業歯科技工士数は平成 18 年までは、ほぼ横ばいの状態でしたが、平成 20 年に増加傾向になりました。



第4節 保健医療施設等の状況

1 歯科診療所

歯科診療所数を年次推移で見ると、平成16年頃までは急増していましたが、平成17年度以降は微増傾向にありました。



2 訪問診療（自宅）を行っている歯科診療所

歯科診療所のうち、訪問診療（自宅）を行っている歯科診療所は、全国が12.1%に対して千葉県は9.4%と低い状況にあります。二次保健医療圏別にみると、市原医療圏が14.8%と最も多いのに対し、千葉医療圏は5.6%と低い状況です。

